

行政事業レビューシート

(文部科学省)

予算事業名	国際宇宙ステーション開発に必要な経費	事業開始年度	平成15年度	作成責任者		
担当部局庁	研究開発局	担当課室	宇宙開発利用課	宇宙開発利用課長 佐伯 浩治		
会計区分	一般会計	上位政策	宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	宇宙基本法 独立行政法人宇宙航空研究開発機構法 第18条第1項	関係する計 画、通知等	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 第2期中期計画 宇宙基本計画(平成21年6月 宇宙開発戦略本部決定) 等			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	独立行政法人宇宙航空研究開発機構が実施する民生用国際宇宙基地のための協力に関する日本国政府とアメリカ合衆国航空宇宙局との間の了解覚書に基づく援助業務に要する経費に対して補助を行い、もって宇宙基地協力協定に基づく国の責務の遂行に寄与することを目的とする。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	<p>有人宇宙技術をはじめとする広範な技術の高度化の促進、経済社会基盤の拡充、新たな科学的知見の獲得、及び国際協力の推進を目的として、国際宇宙基地協力協定に基づき、国際宇宙ステーション(ISS)／日本実験棟「きぼう」の運用・利用を確実に実施する。また、宇宙ステーション補給機(HTV)の開発及び運用を着実に実施する。 【補助率:定額】</p> <p>注)日本が得ているISS／「きぼう」利用の権利(リソース)を使う科学研究等の事業は運営費交付金で実施している。</p>					
実施状況	<p>○平成21年7月に船外実験プラットフォームを打ち上げ、我が国が開発したロボットアーム及び結合機構を用い日本で初めての大型構造物の軌道上組立を全て順調に実施し、日本実験棟「きぼう」が完成。気密性、断熱性、室内騒音等がISSにおいて最も優れ、不具合発生件数も諸外国のモジュールと比較して6割程度と低いなど、優れた性能を有する「きぼう」の軌道上検証を行うとともに、本格的な宇宙曝露実験環境を提供できるISS唯一の施設、船外実験プラットフォームの運用を開始。</p> <p>○平成21年9月にHTVの技術実証機を打上げ、ISSへのランデブー、結合、物資移送、再突入(物資廃棄を含む)等を計画通り全て成功させ、宇宙開発の先進国としての高い技術力を獲得。</p> <p>○若田宇宙飛行士が日本人初のISS長期滞在(宇宙滞在約138日:平成21年3月～7月)を行い、ISS／「きぼう」のシステム運用やメンテナンス、ロボットアームによる組立作業、多岐にわたる実験等を行い、アメリカ航空宇宙局(NASA)からも高い評価を得た。また、平成21年12月には野口宇宙飛行士が2人目となる長期滞在を開始。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	33,275	34,356	35,671	35,657	34,624
	執行額	32,748	34,875	35,671		
	執行率	98.4%	101.5%	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	32,744	34,867	35,655		
自己点検	支出先・ 使途の把 握水準・ 状況	<p>○宇宙航空研究開発機構に設置している契約監視委員会(監事及び外部有識者により構成)で審査された契約案件の点検結果について、報告を受け内容を把握。</p> <p>○毎年度、現地における額の確定作業において実績報告書等の確認を行うとともに、必要に応じて状況調査を行うことにより、支出先・使途を具体的に把握。</p>				
	見直しの 余地	<p>○一般競争入札等による競争性の導入を促進するとともに、既に一般競争入札等を導入している場合も、業務の分割や仕様書の改善、公告期間の延長、公告方法の拡大等により、入札への新規参入を促進するなど、効率化を図ること。</p> <p>○ISSの運用が2016年以降継続となった場合は、可能な限り運用コストの効率化を図りつつ、意義を達成するために必要なものへの「選択と集中」により成果の最大化を図ること。</p>				
チームの 監視・効 率化の 所見	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、宇宙航空研究開発機構に対し、国際宇宙ステーションの開発業務に必要な費用を補助する独立行政法人向けの支出であり、長期継続事業にあたる。</p> <p>2. 所見:長期継続事業であり、これまでの事業の成果を適切に検証するとともに、昨年11月の事業仕分け等を踏まえ、宇宙ステーション補給機(HTV)の運用をはじめとした運用コストの効率化及び作業計画の見直しを行うなど、予算を縮減すべきである。また、他の事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。</p>					
補記	<p>(注1)「予算の状況」欄の20年度の執行率が100%を超えているのは、執行額に前年度からの繰越額が含まれているためである。</p> <p>(注2)「予算の状況」欄の21年度の執行額と総事業費(執行ベース)の差額については、22年度に国庫返納予定である。</p>					

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

文部科学省
35,671百万円

事業概要
独立行政法人宇宙航空研究開発機構に対し、国際宇宙ステーションの開発業務に必要な金額を補助。

↓
【交付】

【A】 国際宇宙ステーション
(独)宇宙航空研究開発機構
35,655百万円

事業概要
国際宇宙ステーション(ISS)の運用を確実に実施し、有人宇宙技術及び宇宙環境利用技術の獲得と「きぼう」利用推進を行う。



費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につ
 いて記載する。
 使途と費目の
 双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.宇宙航空研究開発機構			d.有人宇宙システム(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
業務費	宇宙ステーション補給機の開発・製作、宇宙ステーション補給機打上げ用ロケットの製作、「きぼう」の運用業務、「きぼう」の運用作業の技術支援等	35,655	役務	平成21年度JEM運用業務委託	1,890
計		35,655	計		1,890
a.三菱重工業(株)			e.三菱電機(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
製作	宇宙ステーション補給機(HTV)運用機フライトセグメントの製作	8,463	製作	宇宙ステーション補給機(HTV)電気モジュール搭載コンポーネント予備品の製作	1,192
計		8,463	計		1,192
b.三菱重工業(株)			f.三菱電機(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
製作	宇宙ステーション補給機の開発(そのア)	6,937	製作	宇宙ステーション補給機の開発(そのイ)	953
計		6,937	計		953
c.三菱重工業(株)			g.(株)IHIエアロスペース		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
製作	H-II Bロケット(宇宙ステーション補給機 運用1号機用)の製作	4,428	製作	宇宙ステーション補給機(HTV)用スラスタの開発	671
計		4,428	計		671

